

若い世代の参画により持続性向上、地域の活性化にも貢献

のうじくみあいほうじん まえやま 農事組合法人 前山

※2025年現在



ひまわり畑を活かした景観づくりで地域を元気に

■組織情報

所在地	黒部市前沢地区
設立年次	2015年12月
代表者	代表理事 朝倉 実
構成員	72人
社員等	理事7人、監事2人

組織の概要

当該組織が所在する前沢地区では、清らかな雪解け水と粘土質の土地、昼夜の寒暖差により、甘みや粘りが強いお米が育つところである。

そのなかの前山集落は、近年高齢化が進んだことから、地域全員が助け合って農業を展開していくため、「前山集落の農業・農地をみんなで守り次世代へ」をスローガンに平成27年に法人を設立し、現在、72戸で運営している。

現在は、ベテランから若手まで幅広い年齢層の組合員が米穀のほか、新たな特産品として花き栽培を行っている。

生産状況

●経営耕地面積	60ha
●主食用米	51ha
●水稻種もみ	6ha
●そば	3ha
●花き	露地 23a ハウス 2棟

主な設備

●トラクター	4台 (GPS付1台)
●コンバイン	3台 (普通型1台)
●田植機	1台
●ドローン	1機
●乾燥調製施設	1棟
●花きハウス	2棟

特徴的な取組及び成果

- 米の生産では、作業分散を図るとともに、密苗の導入によって育苗管理や田植作業の負担を軽減している。さらに、ドローンを活用した効率的な防除により労働時間を削減をしている。また、乾燥調製施設の能力強化と作業の集約化を進め、地域の特産である種もみ生産にも取り組み、**県内で最も歴史の長い採種地の伝統継承**を担っている。
- 新たな特産の創出を目的に、令和元年から旧盆花きの栽培を開始し、令和4年からは専任の花き担当を配置して、栽培品目を拡大した。現在は、旧盆花きに加え、冬期のチューリップ切花などのハウス栽培を組合せ、**年間を通じた収益確保（周年化）**を目指している。
- 専従者として組合員の子弟を雇用したことで、30代・40代の若い世代の出役が増加し、組織内の世代交代が進んでいる。若い世代が主体的に関わり、互いにアイデアを出し合いながら、**組織の継続及び活性化に向けた取組が活発化**している。
- 地域の一員として、用排水路の江ざらいや補修、草刈りなどの共同作業に積極的に参加している。また、地域の子どもたちを対象に、田植えから稲刈りまでの年間農業体験を実施するとともにヒマワリを活用した景観づくりにも取り組んでいる。また、スポーツ支援活動も展開し、**前山集落および前沢地区全体の活性化**につながる地域貢献を行っている。

今後の目標

- 中山間地域に位置するほ場の特性を踏まえ、深刻化する鳥獣害への対策を強化するとともに、ほ場の大区画化を進める。さらに、スマート農業技術を活用し、**効率的かつ持続可能な営農体制の確立**を目指す。
- 集落営農組織の持続的な発展に向けて、若手組合員が各自責任を持ち、自立して取り組める農業を実現する。また、県内外からの仲間づくりを進め、農業が子どもたちの「就きたい職業」となるよう働きかけ、**将来の担い手確保**につなげる。
- スポーツ支援活動をさらに充実させ、多くの人が前山集落に親しみを持ち、**農業の魅力を感じられる機会**を創出する。こうした取組を通じて地域の活性化を図り、魅力ある農業を次世代へ受け継ぐ。